〔熟語集〕

東
イ 4
2478
202

門イ4
2478
巻202

月

天象

王普曰日月在天如兩鏡相照地居其中四旁皆空水故月中微黑處乃鏡中大地之影也非眞有桂樹蟾兎之說斯言有理足以破千古之惑 宋鮑氏 天原發微

月中既有兎又有蟾蜍有桂有吳剛嫦娥琼瑛又有廣寒宮殿瓊樓金闕及八乃三千俗月戶何月中之淆雜而人又何能一一見之也此本不必辨宋儒辨之已自腐爛而以為大地山河影者又以五十步笑百步也 明 謝肇淛

乾坤 熟語

○化粧田 ケハイヒ

婦女之部

山家

△すゞやしの編戸ひきつくろひける（杉垣の一村そゞきたるをとりし）

△よしある人のかくれがと見えて庭のけしきおのづからなる風情見えて庭の
くさ花露ちりかゝりたる垣ねに結ぶ河をよそにつくろひたる茅の簷
一間をへだてゝあれたる折戸の簾（ミス）おろされて灯かすかにきこえし
琴の音あるもおもしろくてそゞろに立どまりひそかによりてきゝける

○入水捨身門　△主上ハ龍（タツ）の宮に御座をうつされ

○山中寂寞門
○隠遁門

△あれし所と見つきをのあるへ只松柏生茂りよもぎむぐらすゝきむすぼゝれ
たちかさなりにけむとふ年経ぬ

△人家もと離る一里余すてたゝある澗右ハ岡まつとき樹こく
経年て昼くらく薜蘿葎生茂りて路を塞ぐ

○独吾閑山と
たどり行月

△まよひたる旅のそらえて老翁の花をもて見ぞやとおぼえけるに江ハ弥生の末にて
花もわらひ鳥啼つる風情はえ忘れて行く見えて山深く入る日
あはれ遠き寺に鐘ひゞき花よりかはに分入て峯山手とくに
もゝとせ迷ひ行ども人家も見えず花とゝもにゝさとやさんと折りひ
折々よそよりおぼえ灯のかすかに見えけるにぞまたいかのあるへき
渡たるはさたれハ木立るはしき所々に鐘なりてまたはことに門も
さてや侍る人かけれハあやしみてあるじ紙細て内とうつ
かくれ給ふ菴のあるじ泪とゝめかへして松石とて

○邪見句 △客星（キャクセイ） 悪星なり ○族滅。
△生涯いて列ね[illegible]風流ある[illegible]東門闉土の女雲
のよしとなれ人は此の[illegible]大きな人のと見んとあさいても[illegible]鄙の女
また鄙には[illegible]けり の山里よりあれる月には天仙をもあやすれ

○花急句 △大宅に菓子燕にとく 禍急まろし

○鶯ひそ揚ろ句 [illegible]山に入[illegible]淵に沈むるに見そまん

○斗功名句 △徒に潘岳[illegible]の本[illegible]

○五夜句 △けし七満月にを山の端にあるより影は御水にうつりて今の世は樵の樹木
[illegible]画図の中にあるとし[illegible]風情[illegible]の探近く春来
てゝいらく[illegible]一人白霧山[illegible]と吹きれ一人は月
よる庚云り樓と朗詠ん

○海上句 △旅ゆほより船をとまいてちらくと漕出んは春の海原の[illegible]
みる手むけあしの[illegible]あめられん △一刻千金と東坡も[illegible]に詠みし
[illegible]

○青樓句 △路のべの柳[illegible]れはいてさく人のより[illegible]ものまゝて[illegible]なりけて
よれやまさにても遊女の嬌人の帰ると[illegible]□

○遊女身上句 △[illegible]胡地に嫁せし[illegible]楊貴妃が驪山の
とゝきし[illegible]ど□ 或は福い[illegible]
人[illegible]通ひ[illegible]人多
れだ遊女も□□□[illegible]解姝の名[illegible]みかくれぬし
音宮を[illegible]梨花一枝春帯雨といひ久しもかくやと[illegible]まことに
[illegible]の国色[illegible]虞氏[illegible]玉も[illegible]
ら遊女の[illegible]

○円句 △[illegible]

○白拍子句 △歌舞[illegible]
[illegible]園[illegible]

○春都景 △[illegible]柳桜[illegible]

○山林幽谷句 乾坤・蜷[illegible] △[illegible]山の[illegible]老樹[illegible]輪の[illegible]

△公解（コウカイ・コウギ）没不之

○深山旅人詞 △高ゝの深山にかゝつて[illegible]帰ハ雲と[illegible]
[illegible]

○[illegible]詞 山家

△[illegible]

○倡家詞

△家[illegible]

○倡家起り詞

△[illegible]

○五月雨夜景

△五月[illegible]

○桟道

△[illegible]月東[illegible]一[illegible]蜀川の[illegible]

○山林幽棲 秋夜ノ詞

△[illegible]

○夢

△[illegible]周公[illegible]夢[illegible]軒轅氏黄帝[illegible]孔子[illegible]

○海底波詞

△[illegible]

○海上安穏詞

△[illegible]

乾坤[illegible]

○海上過難風 ふして役船しりくる波をあれさく浮のそとるもろとに海になるて只ひとくるわりり
行難拾
計獄之
仏家
御竹書
湖水
俗船して帝の乃紀ありは厳ありしは舷ともふたさも首こうつる海の道沼
つりして船人もさつこうりしや各号引しありて井よりのふ人あらやとさらく
中よそしやて守るはれんとをつ船のやぐらよりを見れば烏帽子浄衣の大禰宜
次けしいつれの往人るもんでく神力をかんそけんをそうめ中さんと相よいらし
ある天系は神とうすれと様とくつかけは科戸の風の吹をろきてまたくある根国
底国は宮吹放まへ佐須良比失ひてんとよむる浪て風いますく弱くなりく人こゝろさも
こうしうち絶んあらさ海なるき輪形浪うけし危さやゝ永く仏陀の冥感よあらさんべ
いそいは船中を救えんと乞ゆまてされともくやまうるあやしくみくと唱て船にある
いひきせし皆伏もくしと起ありすそろうえ上人は船中の経とたきけんとて泥も
めくしいふらはほあしはありけれ漢の倭姫宮の流とくそ取よりて山に海やし祈り
そさうしとのんまそていうるの特数ありみよそつとおこし大浪たぶみせ浸
さぶ山ずいもろ底よ海うひぬ船人をしとそていかる貪る道るのやと云益るえなん
せし悔さよりて永あかり法に自るけちんと赤帆を蔵帆よゆりあし おてくだりとう
うぢよおしありや何のるよとあくあいけ用よつさ娘

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

時候

○[illegible]

○前九年合戰

△源氏系図の部 源氏系図の部 ○中興略記 ○厨川柵 源氏系図の部 厨川柵の事 厨川柵の事

○鎌倉

○治承之役 寿仲

△治承三年源の頼朝二千余騎の兵を率して相模国に入る 治承三年源の頼朝二千余騎の兵を率して相模国に入る

○白駒過隙

○晩天詩

○初冬旅行 艱苦詩

○平家没 西海

時令

△元暦二年三月廿四日

時今

△また人作りて云ふものハ偽書なるへし忠心なくて附會したる事にて信するに足らぬ也
仵卯ミう所なりともはりけるか

△日本と竜宮との通ひ路ハ神代の事にて彦火火出見尊の御時まて所々に絶ぬれと

○神代ト人代ト差別之事

△神武天皇より後を人代と云ひ人皇と申すなり神代の終りを鸕鷀草葺不合尊と申すなり神武天皇ハ其御子なれは彼此近くて神代の人にてのみ有りしかは神代と人代とて係るかゝるへきにあらねとも日本書紀にも古記にも国常立尊より伊弉諾尊まてを指て天神七代と謂ひを也とされとも後に天神七代と天照大神より後を地神五代とそ云ぬれとも古書に見ゆるなるに天神地祇とハ大に差別のあること古今わかち其の序と紀る名へくれはもちいやかく神代とハなのりも定まらんするかなりてこのくはらくしく人の世となりてすへてのものゝことゝもそこれりはやうひとももしハよろしろうと云ふへく伊弉諾尊まてと神世となし神代とは云て天照大神よりハ後ハそれも稍々其の世に人の世ともかれこれや何れか疑をなすハ彦火々出見尊鸕鷀草不葺合尊三代日向に於てあれ此代ハ文物何らぬ質朴の御時なる人直のまゝに治められて何にても謀策とてなかりし神武天皇東に国あるをきゝ給ひて軍兵を催し大和へ入んとし給ふに朝敵長髄彦か射る矢に天皇の御兄彦五瀬命あたらせ玉ひしにて軍様をかへ給ひ敗んとする天皇の神策をめくらし英策を用ひ給ひし事神武紀に見えたるにて今日の人情と一つなる
それより人代と云ハ人情今日の如きを世といふ事玉勝間に見えたり
今何代の事あらは五百年前の記文にハ見えたる書には多く見えたり

○水陸の薦（セン）法事書写

○俗俗の名を号し△俗通の暇和尚をぬこ　つ人そ善林に文字得の風流と称ひ所の寺ひ

○南都北嶺（ナントホクレイ）之衆徒○遷流の訳無常の封戸（寺領）ナリ

△芭蕉葉の通俗於とていまそうしこ

○唐寺汁△常住の面（テン）あれて清流しちうるてよう人檀越の厨をいたしうるもうれ

茶屋よめづらうるる寂（ヒツソウト）人へしとそうを汁

○祈観音佛子汁△水男水女のあんちうど公会（シンエフ）不空（フクウ）の法いさかたらいもいんあれうるて

○聖汁△ちひ法はのたうるうる年ひくひひすりうる世をまのようるる汁

○僧乞人△野も山も花さかるるぞさていうる世のまうるて地のうるうるたらやうるいのうも詩や

人我のつてうるる山の寂色と松のすぐうて遷流の訳ふうるの

○僧乞墓△ひて一月ひまりいうるうる世の五陵そう行ひたさうるのたりも忍ぶ山も

ていうるいうるやうるうるあうるうる世の五陵そうるうるうるるもあれいあうるものうるたるのうるうるる

しもどうたうるうるうるうるうと新敬の仏へうる帝敬天の行る通をうるうるうる

釋教　うるいめ〜たるうる新敬のあうるひうるうる女ひけうるるうるうる奥は繁（ケシ）多くしもの

○僧道鏡女慰伝

○女慰伝

○佛法東漸

○帝王佛法之伝

○朱氏伝

[illegible]尺義

退濃紫

宮室

[illegible]

[illegible]

○神祇宮室

[illegible]湯津社の林枝[illegible]高墻[illegible]門[illegible]地祇[illegible]

[illegible]伊弉諾[illegible]浮川[illegible]

[illegible]闘鶏の御田[illegible]

[illegible]七宝[illegible]水晶[illegible]

[illegible]脚[illegible]越中の[illegible]立山の[illegible]宮[illegible]

山の地獄[illegible]

三越路の内の[illegible]天津罪[illegible]地津罪[illegible]

○神祇地獄

[illegible]地獄[illegible]刑[illegible]

[illegible]神威[illegible]八稜[illegible]

千座の置戸[illegible]

[illegible]人の肌[illegible]

[illegible]毘虫[illegible]人倫の道[illegible]

千座の置戸[illegible]

△[illegible]

○廢屋 △[illegible]

宮室

○輕態ゝ揚羽の蝶花を追ふ姿の上に舞ひけんかくやとそひ今ゝをそる

○舞姫

人倫熟語

美人。窈窕うつくしくてきよらかにして雪月の容水の様のうるはしさなど花をもはぢらはすかたちにて
大液の芙蓉の新にたとへまた柳のみどりのいとゆるがせにむつかしく
丰標やさしく巧くして

○天折(ヨウセツ)也 短命。○分挽(ブンベン)也 出産。○雷鳴痛楚 腹中痛 ○千載一遇(センザイイチグウ) ○口碑 ○妄誕 ○人倫(カイナ)
○懸掛(カカル) ○挟杖 ○残忍凶暴 ○資性聰明 ○伶俐 ○温
○美男詞 △生れながらにして優にやさしき男なり
美女詞 △そのすがたにすぐれてなよびかなるはたぐひまれなるあはれと
○閨評罵詈 ○影迹 ○一 伝音
○人情無定詞 △山の井の浅き人の心そかりそめにも共に宿し △明日の昨日とかはる
○人非捨身詞 △まことに人の心をはかりかねて見ゆれ ○跛尾 ○庶子(ソシ) ○再醮(サイセウ) 後妻 ○活計(スギワイ)
○悲歎詞 △今は人もなく涙にくれて ○婿(セイショ) ○室(ジツ) ○大徳 ○鴨母 楽華
○三 死女 △生長ふにつけてもあはれむべき世のうきをはいかにもはらからとても
ときのまにもすくなきたとへにてそのちぎりをたえてさらに逢ふ事もあるまじ
○三 死女止涙詞 △死女後とうらみてからめてこれをいにしへのをしへにならひてとらへぬを
よるひるともなく涙にくれてよそほひなく
○三 婚女 △年ころのちぎりも此日になほひのほとけとなりて
○三 立詞 △男女のまことして国にありてもかはりなくいとふかき
人倫 父母子孫はなれとそなへて

○女云男 男詞 △[illegible]て[illegible]ひとる 初花[illegible]のかずゞでとよみ[illegible]に

○女一男[illegible] 岩木の詞 △男ハ[illegible]より[illegible]ひてハ[illegible]れとこれハ[illegible]ひて岩波の山の岩[illegible]下もゆる[illegible]に[illegible]ばんらくもさそ[illegible]
[illegible]より[illegible]ものをまして

○女一男 [illegible]當詞 △男ハ [illegible]の[illegible]て[illegible]ひの[illegible]なを[illegible]月
[illegible]とを[illegible]

○[illegible]中詞 △新[illegible]花をかきたはすれハ八[illegible]のなるに

○思ひて通詞 △[illegible]の神[illegible]はくがりありかきのその見[illegible]

○[illegible]見詞 △男に一[illegible]の[illegible]て[illegible]のて[illegible]の見[illegible]

○別女後詞 △[illegible]て其[illegible]の[illegible]れ[illegible]はづくをたかよむつでハ
耳にのうつて其人の[illegible]も身に[illegible]て[illegible]て[illegible]にてまた

○[illegible]詞 △五輪かで[illegible]て[illegible]の[illegible]もそえて[illegible]て[illegible]
うちふして[illegible]かず[illegible]

○衆道詞 △龍陽の[illegible]より[illegible]の[illegible]

○孔子云詞 △[illegible]に[illegible]に[illegible]女あり[illegible]とあるより[illegible]て[illegible]て
ハ孔子[illegible]と[illegible]にてをの[illegible]女[illegible]にて[illegible]を[illegible]
[illegible]女[illegible]てあ[illegible]と[illegible]かずと[illegible]

[illegible]の女[illegible]と[illegible]

○

○男女契情詞 △供[illegible]の[illegible]かれ

○美女詞 △[illegible]をあ[illegible]もよる[illegible]さらに[illegible]そ[illegible]たもさる[illegible]たた
[illegible]飾[illegible]の風流をつくし[illegible]識ニ[illegible]は乙女の[illegible]の[illegible]を[illegible]と
[illegible]

○[illegible]詞 △[illegible]川と[illegible]て[illegible]れて[illegible]ひに[illegible]月の[illegible]と[男名]に[illegible]し

○蒙恩詞 △甚恩恵 恩顧トも の[illegible]山 海山トも [illegible]と[illegible]し △[illegible]と[illegible]も

○妖怪 △[illegible]にて[illegible]も[illegible]て[illegible]の[illegible]両乱[illegible]
して[illegible]の眉[illegible]たるをかけく[illegible]あり[illegible]て衣の[illegible]れ
肩を[illegible]し頭[illegible]耳[illegible]面[illegible]とさし[illegible]の[illegible]を
[illegible]頭を布[illegible]の[illegible]そつ[illegible]て身にハ襤褸をまとひ[illegible]
枯木のごとく面すごく眼ハ日月のごとく[illegible]もあり異相の者五六人

○[illegible]女を部ニ上 [illegible]の詞 △[illegible]の[illegible]を[illegible]園に[illegible]ひそひとときハ[illegible]も[illegible]の[illegible]
[illegible]て[illegible]の人[illegible]ハ[illegible]ぬ

○女[illegible]詞 △[illegible]と[illegible]女の[illegible]粧飾[illegible]ひすて[illegible]
[illegible]の[illegible]のたくひ[illegible]あ[illegible]て[illegible]

○通女詞 △旅[illegible]の[illegible]に通ひ[illegible]数月[illegible]をもしますの一入再入の紅[illegible]も

人倫

○衆名

宰我子貢人　富樓那舎利弗

○沙門

偏余の信

○貞人婦詞

○白拍子舞蓑詞

△役人閑息国の女ありて二また事ふるを恥て[illegible]

[illegible]帝[illegible]の女ハ[illegible]烏帽子[illegible]

[illegible]

△拍子[illegible]烏帽子水干[illegible]

眉の[illegible]

[illegible]

[illegible]大庭[illegible]の梅[illegible]

[illegible]

[illegible]曲[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○女疲労仵詞

△[illegible]

○隠遁して尼[illegible]詞

△[illegible]

○義女ノ道ニ[illegible]詞

△[illegible]

○女貞操詞

△[illegible]

主の女房[illegible]

△圓[illegible]川[illegible]

○女捨身水詞

△[illegible]

○無縁詞

△[illegible]

○獄人詞

△昔男の[illegible]

○疾婦詞

△香[illegible]

○山伏

人倫

[illegible]

○待美人詞 △穆王瑤池に宴を設け西王母を見へ（る）てく其役ひ向て溢れ溢れ

○立美詞 △ゆらんと然りとる夜もをれてもまかうぬれとし行の弓書行玄の花も先うれて

書の圖に一人漢の國の中に君たちの花ひにあてられ袖も露けき杯の空の宿中

の月の使まうちあるとつれさ立所の月よと今りく初ノ今宵の翠ヨ影

みの使も得てしぐれとしこち影る浮る御やからへの入まうおしとひて月は清らも

岸よりかちる御かの山夜とてさの待りるおいすなるよし夜の見る月もとに続く

仰れどいざ嬋娟の君る逢せまうてんとうち君に語るてみられい畫竿楠の葉の好く

しかるる嬋の宿の鞋引き○齡ハ破瓜あまりとてみくるを嫁きとて

らる氣色きうに絶世の美人かう

○朝夜 武士旅行 △一陣さらそて爽に襲ひ烟代る之を秋風の吹そして陸奥立の騂騟の馬を歩ませと

立月よきをひてお世らるをまうひもあぬ

○嘲仙人詞 △海上年の面壁も注ぐる仙すに仙を求んより高きを西南の大の巫の

ちる及びを沆瀣の盃も玉盃の浮るは去りし西陵と餐玉とかりて来れ

味はおもし妻はなんより眉粟のれ羽衣を求んよりかくのてく循す

仙境の未を郎りんより誠に戸を閉て門をは設けし海邊と久まと

○美女詞 △二八あまりと見て其の花のにほびやかなる粧ひあう

の清らかなるけしひ似るとよりとうちとす定まらし錦堂の美人

○歌妓詞 △筑紫琴に三弦と合奏て韓娥を唱えむ嬌姿宛轉として

夢なてく弦音清亮にして渓々く許るかてく絲わも絡の疾く

○男女不交合詞 △今も日もそ兮て寝夢のかすらにて精氣自ら感して胎せらるも卦の象に男女睽く

待られもそし遅速さらはあかうかれは

其志通ずとあるそく

○遊女

△漢有遊女と詩経よりよひ始めてたはすうてまりつるもてろくてし人多て

邑里にありてるは多く船の中にて君すて旅人を慰し昔は江口神崎と

ありける三所あり康に所録朝野群載才三に遊女記一篇ありて其

其文曰自山城国与度津浮巨川西行一日謂之河陽往返山陽南海西海三道

之者莫不遵此道江河南北村邑処々分流向河内国謂之江口蓋典薬寮味原

牧掃部寮大庭庄也到摂津国有神崎蟹島等地比門連戸人家無絶倡女

成群棹扁舟着旅泊以薦枕席声遏漢雲韻飄水風経廻之人莫不忘家

洲盧浪花釣翁商客舳艫相連殆如無水蓋天下第一之楽地也江口則観音為祖

中君小馬白女主殿蟹島則宮城為宗如意香炉孔雀立牧神崎則河菰姫

為長者孤蘇宮子力命小児之属皆是倶尸羅之再誕衣通姫之後身也上自卿相

下及黎庶莫不接牀第施慈愛又為人妻妾没身被寵雖賢人君子不免

此行南則住吉西則広田以之為祈徴嬖之処殊事百大夫道祖神之一名也

人別剋之数及百千能蕩人心亦土風而已長保年中東三条院参詣住吉社天王

寺此時禅定大相国被寵小観音長元年中上東門院又有此事此時宇治大

相国被賞中君延久年中後三条院同幸此寺社狛犬犢等之類並舟而来

人謂神仙近代之勝事也相伝曰雲客風人為賞遊女自京洛向河陽之時

愛江口人刺史以下自西国入河之輩愛神崎人皆以始見為事之故也

其の遊女かくも大族の寵もありしとて旅泊のちうりのことて後世の作とは異

謂る如くとりて名もえされど行のちうれしとりて遊女の名ありしと弁ヌ

ハ地名なりとへハ遊女の名あるし大江以言詩の見に遊女詩序一篇あり文粋か九ヲ

ハ門かれもぬ色のとくかそめとぬのたる遊びつさらんやの治あり遊女ハむりよう志も眉

人倫

を描くこと今を盛りとなりぬ。眉つくること八字眉八字眉は漢文帝の時に起りまゆ青黛眉。愁眉。啼粧。の眉の作方紀元前の事物紀原に見えたり。唐書の時に水晶冠を
と遊女の別名とも云へり。也東鑑の中に金の作の風俗なりし時に遊女
池ヶ谷遊女と云ふ。上宮の沖よりたなびきたる。
ものいふ。の法のつくりかた。

傀儡

〈傀儡は木偶戯なりと注して人形なり。人形もちゆめり。紀正義に以木為人
斲象於人形也。とそ。傀儡師なり。遊女のことを傀儡師なりと云へり。遊女の
ゆえに形をつくりたるなり。遊女の形を作りたるなり。
のつくりかたは。
不堪其罪汨〈淮南子主術篇に審於毫釐之諸者必遺天地之數不失小物之撰者惑於大
事之挙。猶獲之奇。投搏虎牛之不可使捕鼠〉

善人親ら〕〈孔子家語に子曰善人居処芝蘭之室不聞其香即与之化
忠臣ノ汨〈唐の魏徵云る。孝子良臣。忠臣。良臣。孔子家語に曰。孝子良臣。孔子家語に曰。良臣君の仇を報て苦る忠臣。
国を亡る君。中を乱る。〉

悪人

〈古代の悪人は肥形と能き。悪人を猪と云。悪人の頭。猪の頭。
杜と掛る風俗。
ものつくる。気。山。前。鼻。類。の。
ものつくる。則。孤。の。屏。の。微く。
杜国。義。の。趣と。重て

老人

〕〈翁。男子の白髪。背がかがむ。頭。毛。白髪。
〕〈月。月。月。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

艶廊由談

粧女

○紅葉舟の樺折し野辺の里の名花と今ぞ盛りなる果て歌詠の
偶偶さく咲簪み具合風と併り人さえも情を弱く歌
第八紅梅迫り下つとおの〳〵ふと多りて帽き立風情仲
学し学るまくやらさて其の面ふを作ふを遠紫の学家
もうと四方のうれ男ふみ上ふと匿ひ桃の名八柳のあるしか
也の人

○衣紋の地味と一強ふ山りめて前編の上ふを五岳典紀の出ふ教
黄紋みの帯ふは官僧の律さ世ふ英編みの福 扇裾ふ八蒙ふ
の帯ふ ふと帯ふ酒ふて偶ぶ水 柿の樹 鬢八所〳〵ふ色也
み見ふ ふ桂の陰 鬘〳〵として我つふ 禿の髪も紅実つふ也
美人

○前八蓮英のつやふるふふく眼八杯水の泡ふふく花城月殿を
都也 花遊 形粧みふ八ふ

金銀

○必や学ふの髪の中ふ白ふ空の聚盛ふく叢中日〳〵ふ元〳〵

珠玉

○太素の牛頭香。亜刺敵の龍脳香。金條環。八宝器。珊瑚の枝。瑯玕の
緒綬。夜明珠。火斉珠。球琳。琨瑤。瓠玉。鐘玉。通天犀。人魚膳
鳳琢。竜樹。

奇事

○宮ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵

△伊達の[illegible]

△故に矢と射て付接けの物

△敷の矢、毒の有の篠(オボロ)なるに射抜て跡を晦(クラマ)して

△屠(ゾクメリ)扎(ホウヒセ)美

○糊(サウレン)太医(ヨメイリ)なるべし。墻(ケイフンキン)粉金膏(ニオトロイアブラ)。微眺流眺(スコシミナカレメミル)

○琵琶(ビ)と把て

△唐(トウ)ようなれども沙の紙(モヒ)やうなる物の紙に紙心をくるみ

切(ウ)て両のをくに吹(ツル)て四の孔(アナ)を開て大絃小絃(サウ)調(ナラ)して

をくに吹(ツル)ろうをく敷(ヒ)嬰(ヒ)

図(ズ)をえんに形(カタ)の如(ヒ)ところ

流(リウリ)新(ワカシ)流(アイエン)鯉(エンセン)の[illegible]

図をもんで撥(バチ)をさしてくまもの

○和琴

△[illegible]

器財

○剣

△夫剣ハ陽ニシテ威あるものゝ鬼魅ハ陰ニシテ形なきもの也剣ハ鈍ニシテ敵を切る鬼魅ハ利ニシテ人を惑ス

○鏡

△陰陽ニシテ物を照すもの也精ハ陰ニシテ形なきもの也鏡ハ陽ニシテ形あるもの也故ニ鏡ハ精魅を照ス

○宝貨

△大登香小登香大内記小明光大博山小博山大茱萸小茱萸大文龍小文龍

紙帳の類　紅衣の小香の花百の英ハ共ニ婦人の百蘊香

粉沉香汁　玉台月　徐盒　粉画　金銀文甲の装飾　珍沉の盃　珊瑚の花瓶

△金紙の方刀一揚げの花ハ唐後武の宴ニ四方白の曹ニ流れ

○

○一角の筆　○雨云毋金箋の料紙　○の具用

○狐性

△頭ハ鏡の対金とゝぐ日月をうつしてあるあり眼ニ光を蔵き牙ハ広ク長ニ達ひ金作にして

○狐

△狐ハ千年を歴て淫婦となり百年を経て美女となり髑髏を戴て人と為り水を能て汚を洗ひ丘を首として仁とあり人ハ狐の威を仮て石獸を走らしめ学ハ群を惑ハシ才を法る其ハ智ハ狐の威を仮て石獸を走らしめ学ハ群を惑ハシ才を法る其ハ

○狸自言

△狸ハ性痴鈍にして神を直まるの徳なく人と偽の害なく狐の穴を以て巣窟とし芝居の役者を以て人の形を化ともりとなして人と魅して性命を絶ス

人と偽ることなく人と偽の害なく狐の穴を以て巣窟とし芝居の役者を以て人の形を化ともりとなして人と魅して性命を絶ス

ハ陰囊と舒縮すると腹鼓を打て古猫の毒と助るの薬と為ると雷の腹鼓ハ人を惑て人を殺ス

○闘鶏

△周の宣王闘雞を好て紀渝子ニ鶏を養ハしめ唐の玄宗即位の後七月の庚辰一鶏を

○鶏故事

氣形

闘ハ遊あり紀中に戦を求ハ有ハ木を撲ハ有ハ打ハ有ハ正規官物ニ養ハ有ハ

△往昔唐土周世ニ孟平子郎昭伯ト鶏と闘ハ鶏の目ニ蠅を生ス郎氏ハ蹠を金ニて包ミ闘ニ臨ミ鶏の目ニ蠅を打ハ淮南子ニ禍の後て福あるハ

○鷄

○鷄太閤

○金端鉄距

○通天犀○海馬○水牛○豹虎　龍王

人徒来之道　[illegible]

△瞑目（メイモク）目（マブタ）の短虐性急○沈思宮室○山上の恚火（イカリ）の池をそそくとそく

△疾火（ヤマヒ）△痼疾（ヒさしき病）○一徹短慮

息

○軽のこゝ紀渭息をつき

美人○秋波（メノウチ）日中（ヒルハヤり）美（ミテ）フ

肢體

○瀬瀬のくらし様 アリハテシボリ ユカタノ ナハ

○美服を
竿に掛る間へ衣に風(カザイ)
とて錦帳(ニシキテイ)とり広(ヒロ)るこそ隠(カク)れの
毒帷子を晒(サラ)るもそしるふるまひ
笑うべし

衣服

山家△杉葉と榊葉一紙にて菓物などのもうけうづくり盛りて答ずるさま

△菓子　心ばせの物なるべし　客人の給の儀とそれ

○酒

△酒は去の貴禄なりて帝王天下を順夫人等なりし百福の舎も酒なるあるべし祀る享ずしては福のなれば祈ることなり
喜べることなれば祝ひ酒実に百薬の長なりて憂ひを鎖の玉簾なりされば陶淵明の車に新の下の濁り酒の藤左衛門の月ん永しけれなりてけ長なり

○酒肴

△三年三百六十日常に酔て泥のごとく酒と好きなる人は祝儀なりて白眼なりて人事他人のごとく酒と嗜む人は面像とはいとしたる眼なりて血属のごとし

○酒掛物

△兎角の壁に将軍の掛物をかくるごとく一幅は牡丹花の飲中八仙歌のかくるごとき者の少れとなり

○酒宴

△宴とは五五の宴なり年爽なる衣出を忘れ酒器に改生を盛り酒壺をかくして所せきまで指ものとなれしごとの

○船中酒宴

△楫なきは舟なりと昔物語りし朝の鮮なる海老蒲の鮨をとる
酒なかりて交歓　坂東の交鮨と北条の文鮨と比べ

△第八五六五　お　煙草ハやう〳〵百年位ニ成ル　天正年間ニ初ル　元和ニ
成ル　寛文ニ成ル　元禄ニ成ル　宝永ニ成ル　享保ニ成ル　寛延ニ成ル　宝暦ニ成ル　天明ニ成ル　寛政ニ成ル　文化ニ成ル　文政ニ成ル　天保ニ成ル　弘化ニ成ル　嘉永ニ成ル　安政ニ成ル　万延ニ成ル　文久ニ成ル　元治ニ成ル　慶応ニ成ル　明治ニ成ル
一族ゝゝ老幼男女ハ村の所ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　

生植

○針

△むかしより鍼灸のめはてなき紀四七の切より脈絡の舍湯液のみちかれ
ぬ命完ゆるかるる時は速功神のごとく仏法の戒を守るべきこと安

○博奕の禁△上古のおもむきは須日本紀文武天皇元年十月乙丑文曰禁博戲遊手之徒其居停主人亦与同罪云々○日本紀畧第一延喜五年七月朔八日文曰今日内舍人大野直真配流又博戲之輩云々○双六樗蒲を博戲として罪る法令は天平勝宝六年の官符なるべし 挿亡令新律及び六省不論高下一切禁断云々 補仮を用ひすして双六を用ひる近年浮屠式曰双

色を酔るよりは利まさる老て改るあり博奕は
利をはかるなり利を捨て光陰をすつるなり博奕は利をはかるなり
の猶負て千金万金のものをうしなひ樗蒲を手にとれば一ぞくの
服をうしなひ双六は銭を負て百銭にとどまり毒虫と毒蛇と
神はなる向ふ様は毒を手にとれば鬼と魔をうしなひ
之類百日苦使甘蔗琴今不在制限とのたまへり僧尼作音楽及博戲者謂双六樗蒲
なるの法華経に云ふ樂と行ふ者は罪人なり僧侶いかるいとまなけれども
かの如くなれば僧尼全く房室に入ることなかれ今の世に
古来より僧尼は女人と交はりと蔑如みなさるの域を脱して官寺のはなはだ古より
風角の術とて鬼魅の巣窟と知るべし

技藝

合戰

○大軍潮の湧くごとく殺伐(サツバツ)たり。陣歩のおの指をんさにぐるごとく

○大柱(ハシラ)も折(オレ)け地維も絶るごとく。ものおもおもておもてもうもうとやすし

○手(ハシ)の動くごとく茅(ボウ)芒(ボウ)蒙(ボウ)しくのうえて墨(ヒイ)しくうえ空(ヒ)のごとし

○孫子に善戰者求之於勢

○普通ナル無禮セケンナシ

○やはれ　向フノ名ノ上ニ付ケテモツテ罵イフ罵ヒ言ヒヤシハ弟ヨ　ナトシ

言語　熟語

○老女詞

△老女おもひをらくのかなしさをもてあつかひ侍りしかども
△あるものこころ非果ハンのあとにの恒間ん名ひ歌を
なつかしのやるうきちさにあもちあ人俳うでさこまいをとてるのまつ
女の寄のたかくぶし律ひまのきハ出ちこの神のもすぞもかいく寄にあるらあ
かるるびきを仮名をそうしとおぼこびハ神のんともふくさあ名うんやとおもこに

○男詞

△年さくばかくせをきやるうをうかふ山路
ぬくくねはんをしるどかいるこまるきんさをハいまさを侍まとて侍ばび
○嫁家の男
△久米の岩橋かけてしまうばばでやあるくさ
○非五一分之
△いぶかひ手まつりと病のてるかやくばうのの粉ひ柿の五粉まの風まるひさ桃乳の
居乳の寄よ選びてまろこびのろまるぶをにはありれどすてふいぶらひこすよ
けをきの和のおぶろよりすむ月乳の風ほ
○男子思公
△月れんみてさんれ月のう人えのほの系の徴女ヒメりうびやとんれ面ぶつる
○嗅髪情
△ろてようえとえてかのて屋のはるびてまるひんて花の下紙とる寄
多まるれるさぶてまるをるわんが恨ひ老ら血のをとて陽てるるとば
○惜別期
一再會詞
△名ふばつきを右明の月の形る遠ろはてめろるをつてし

言語

○非心欲行　△今ら人心きえて民にむかひ立たゞん行り

○[illegible]　△[illegible]

○依神の奥等用　△さらにて世のさきをさろ〳〵めん神のちひもおさゞ人〳〵なのえ[illegible]もとろ[illegible]た
光のゐさを運の未[illegible]ゐ[illegible]ゐ罪とゞけさてうきをとゐ[illegible]

○[illegible]　△小の方へれゐに[illegible]むのくちをはゝ[illegible]
[illegible]ゐ人も[illegible]ゐ命を

○[illegible]人[illegible]行　△[illegible]命を[illegible]にゐ〳〵の[illegible]
[illegible]のゐ[illegible]

○責人往来の用　△[illegible]駆路を拂ひつゝに侍衛[illegible]の[illegible]偏て

○[illegible]用△塾と[illegible]て[illegible]と[illegible]拓地のおゝい

○[illegible]用△二杯の水一車の[illegible]の火を消す事[illegible]

○危急用　△大[illegible]に[illegible]

○[illegible]用△虎を放て[illegible]

○阿諛　○[illegible]　○後世　○[illegible]料の[illegible]　○[illegible]

○盤詰　吟味　○點検　上　歸[illegible]　○今笑

○無功名用△徒に[illegible]を[illegible]のたゝ[illegible]

○陷死地用△蛇の口をのがれて虎穴の害をまぬかれ

○報讐後用△[illegible]千戦の[illegible]緒の[illegible]

○失損用　△[illegible]の下[illegible]

○上下無差別用△[illegible]

○人[illegible]用△[illegible]

○全然用　△大丈夫の一言駟[illegible]も[illegible]

○[illegible]用　△[illegible]

言語[illegible]

○御悔　○干城　○[illegible]

○男戯女の△[illegible]

○朝三暮四

○配偶早△[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○怖畏の△一堰の水の[illegible]

○諺

△跋履をとれん、目視[illegible]

○諺

△其相と落[illegible]

○物事十分ニカナヒの△礼記曲礼上教不可長欲不可従志不可満樂不可極

紀原

○永樂錢〻〻〻

[illegible]ハ髪ヲ[illegible]ケ[illegible]ケ[illegible]ケ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

以下
3丁
白紙

○根荄分枝衆流宗巨海網維統綱目千万祝一毋 月懸乎天而月影在池豈云別乎而論其所處天月池影豈云同乎

○聾者効歌 ○如跛之徒尊跛而卑伸尼也 ○運屈而志天辱至而怨人

○鼠竊狗偷

○水与火能死活人者其用之之術在得与失耳已失之用既咎於水火不亦惑也

○求木之長者必固其根本欲流之遠者必浚其泉源也

○日月明望霧黰則不見天沙石淨潔流濁則不覩地故雖有明淨之質而不得朗者埃霧蔽之也

○莊周曰聲者無以与乎文章之觀聾者無以与乎鐘鼓之声豈唯耳聾有聾自哉夫智亦有之

○目短於自見故借鏡以觀耳髮拙於自理必假櫛以修束心窮於自炤則假言以[illegible]

○鳥有擇木之性魚有擇潭之情碧鶯緯於青杉以茂凌霄之葉鴻雁託於秋風以成輕舉之勢以夫蟲魚并木之智猶因風而高擇潭而深以成其事以全中身軀上

○影必依形響必依声未有形而無影之依有聲而無響之應者上以言以文之同

○水之性者孤而物故器方則水圓

○文師之化風子房之情草偃故草上之風必依風之東西也

○[illegible]

○唐文宗有言去河北賊易去朝中朋黨難

○三代之際天子無故不殺牛諸侯無故不殺羊士無故不殺犬豕

○保嬰論云若要小兒安須帶三分饑与寒

○設筌設筌得魚而忘筌施罟施罟得兎而釈罟其編筌結罟之始意在乎美次兎魚

雜 ○猶如筌之設初在得兎魚之弊也

○牛蹏之涔無尺之鯉塊阜之山無丈之材 雜 所以然者何也皆其當宇狹小而不能容巨大也

○雖有嘉肴弗食不知其旨也雖有至道弗学不知其美也

○井蛙謂海鱉曰吾樂與跳休于井幹之上缺甃之崖赴水則接腋持頤蹶泥則没足滅跗虾蟹科斗莫吾能若也子奚不来觀乎鱉答以東海長汝萬里無際無垠流潦盤溢決溢渤蕩不為潦旱損益其樂圖極於是井蛙適〻然驚却〻然自失也

雜 今一一殆類于夫陷井之蛙乎蛙尚同鱉之言以知適〻趙〻少怪驚以自失焉汝之執拘也將不若井蛙邪

失圖者必有崩竭之災人文失必招傷身之患汝半言之不慎也不能解釋

○信言以弃理非得理者也信名而器実非得実者也故周人玉璞其実死鼠周人周国人也周国貴玉璞其人不識玉璞有人欺之謂死鼠為玉璞賣与周人五絲裹之宝匣藏之卞和聞之往歎其死鼠而大矣楚之鳳凰乃是山鷄楚人得山見面野中見多〻向知是山鷄乃慨歎之吹歎其君行至半途得実者也図野丈人藥名謂之田夫河上姥女而藥名也謂之婦人是信言以弃理之非得理者也

○智人知智蛇自識蛇故然紂之狗乃吠堯舜盜跖之徒及鄙仲尼也

○有天而后日月辰風雨留疑各得其所有地而后山川草木城邑人畜各得其所若無天無地品類何縁存焉

○飢餓逼人則救之以宝珠孟子与之橡栗

○焚燃熛室則救之宜飛馳灌水若穿井而救之窮日逐至則熛隗棟焚